

兵庫県立神戸北高等学校 令和2年度 学校評価

《総務部》						
全体	分掌内	分掌外	重点事項		具体的取組	
A	3.1	A 3.0	B	3.1	日常の清掃活動やゴミの分別を徹底させ、校内美化を図り、教育環境を整える。	管理委員によるゴミステーションの分別確認、学年や顧問と連携しての注意喚起を行う。新型コロナウイルス感染症対策として、管理委員・保健委員による消毒作業を毎日実施し、安全な環境を整える。
B	2.4	B 2.5	B	2.4	緑化委員会活動を活性化させる。	緑化委員会の活動を体系化させ、生徒が積極的に活動できるようにする。
A	3.2	B 2.5	A	3.2	安全・防災教育の充実をはかる。	地域防災教育活動をさらに充実させ、防災への関心はの関心を高め、地域の担い手としての自覚を促す。
A	3.3	A 3.5	A	3.3	広報活動を活発化し、本校の魅力を対外的にアピールする。	学校ホームページの更新をこまめに行う。「北高だより」の内容の工夫、充実を図り、定期的に発行する。学校説明会等で、本校の魅力がわかりやすく伝わる工夫を行い、生徒の活躍をアピールする。
臨時休業中の取り組み						
・学校再開時における清掃・消毒作業の計画・準備						
今年度の振り返りと来年度への改善点						
さまざまな活動が新型コロナウイルス感染予防の観点から制約されることが多く、緑化委員の活動も不十分であった。また、地域防災教育活動、オープンハイスクールも感染予防対策を行いながら、規模を縮小して実施した。日々の清掃も、感染予防の観点から、掃除用洗剤をこまめに使用しながら行った。ただし、特に日々の清掃については、クラス減ということもあり、清掃区域の割り当てにより日々の清掃が不十分になる箇所が出てきている。来年度は日々の清掃に加えて定期的な大掃除を入れていながら、校内美化に努めていきたい。また、防災については、校内防災マニュアルを実際に災害が発生したときに、職員がより動きやすいように改訂をしていきたい。						

《教務・図書部》						
全体	分掌内	分掌外	重点事項		具体的取組	
A	3.2	A 3.0	A	3.2	授業規律を確保し、生徒の学習意欲や興味・関心を喚起する指導の工夫、指導技術の向上を図る。	全ての教科において、研究授業による教員相互の評価や生徒による授業評価を通して、指導の工夫や指導技術の向上を図る。情報機器の活用。
A	3.2	A 3.3	A	3.1	本校生徒の進路実現を図るべく新教育課程を検討する。	各生徒の進路実現が可能となるよう柔軟な教育課程の設定を行う。また、総合的な探究の時間の年間計画を作成する。
A	3.3	A 3.3	A	3.3	学校教育活動の公開に努める。	公開授業を年2回設定する。(毎年3回するが、今年はコロナの影響で減らす。)
A	3.3	A 3.3	A	3.0	図書室の活性化を図る。	図書委員による図書室運営を中心に、授業等での活用をさらに増やすべく、図書室の整備に努める。探究コーナー、進路コーナーを設ける。
臨時休業中の取り組み						
・登校日を設けて、指導の徹底をはかる。 ・Zoom、Edmodo、iPads等を活用し臨時休業中の学習のサポートをした。						
今年度の振り返りと来年度への改善点						
本年度から教務部は一人減ということで、業務の見直しをしていく予定であった。しかし、途中で1名交代することとなり、年度途中での引継ぎによる混乱もあり、あまり進展はなかった。引き続き来年度も業務の見直しをしていく必要がある。2022年度施行の新しい学習指導要領を見据えた教育課程をの原案を作成した。来年度はさらに精査したうえで教育課程を確定する。公開・研究授業は例年通り外部に公開することはできなかったが、ICTを活用した授業を試みるなど、2022年度からの一人一台の端末を持つ状況への対策を始めている。図書室は、進路指導部と連携し、進路に関する専門コーナーを作ることで、3年生の利用者が増えた。図書の貸し出しについては、利用者数は横ばいといったところで、今後さらに利用者を増やしていくための工夫が必要となる。						

《生徒指導部》						
全体	分掌内	分掌外	重点事項		具体的取組	
A	3.0	A 3.3	B	2.9	何事にもあきらめずチャレンジする精神を育てる。また、北高生としての自信と誇りを持ち、基本的な生活習慣を確立させるとともに、普段から自然に周りへの気遣いができ、日常の小さなことでもおろそかにしない心を育てる。	何事においても北高生としてのプライドを持ち、あきらめずチャレンジすることの重要性を育てたい。日常的な遅刻指導、服装、身だしなみ指導を行うとともに各種学校行事、生徒会活動の中で何事にも真心を持って自然と接し実践することができるような指導を行う。生徒が作成した北高10ヶ条を実践していきたい。
A	3.1	A 3.7	A	3.1	ボランティアの意識を高め、将来の仕事や人 格形成に役立つように様々な活動への参加を促す。	街頭での募金活動や里山づくりなど、学校行事などで生徒が子どもや地域の人達と接する機会を作り体験することでボランティア意識を養う。
A	3.2	A 4.0	A	3.1	地域の人々との交流を図り、地域にある学校としてのアイデンティティを確立していく。	地元地域の活動である里山づくりに参加し、地域と共に教育環境作りを進める。また地域青少年協賛小・中学校と協力して地域音楽祭や、風揚げ大会や餅つき行事等を開催することで地域住民(幼・保・小・中学生)とふれあう機会を作る。
臨時休業中の取り組み						
なし						
今年度の振り返りと来年度への改善点						
校則の見直しでは、生徒の要望を取り入れベストを新たに作り入れた。また、書類の簡素化では、入部届の様式を変更し、来年度より簡素化を図る。また、情報公開の観点からホームページに、ウェブ生徒手帳を新たに設けた。学校行事では新型コロナウイルス感染症対策をとりながら文化祭を行った。オンライン開会式やTシャツファッションショー、スタンプラリーなど様々な工夫を凝らしながら、無事に行事を終えた。生徒会活動では、生徒の要望で文化祭でのスマホ使用を許可したが、大きなトラブルもなく、生徒会の自主的な活動ができた。また、朝のあいさつ運動では、生徒会執行部が、自主的に部活動に動きかけ運動部も参加して充実した活動となっている。SDGsに基づいた教育の一環として置き傘を校内と唐櫃台駅に設置したが、使用のマナーには改善が必要である。部活動の活性化については、1年生の1年間全入制度を取り入れ、熱心に活動する1年生が増え、今後の成果に期待したい。また、自主的・自発的な活動を促すため、昨年度から引き続きリーダー研修会を開催したが、昨年以上に充実した内容となっている。さらに近隣の有馬高校との運動部の対抗戦を計画している。						

《進路指導部》							
全体	分掌内		分掌外		重点事項	具体的取組	
A	3.5	A	3.7	A	3.4	生徒の進路に対する意識・意欲の向上を図る。	進路ガイダンスや総合的な探究の時間などを通じて、進路に対する意識と意欲の向上を図り、生徒に自己の将来を考えさせる。また、図書室の一部に進路指導コーナーを設け、大学入試の過去問（赤本）や進路情報誌によりアクセスしやすくする。
A	3.2	A	3.3	A	3.3	職場体験の場を整える。	本校は就職希望者も多いことから、職業体験活動・ふれあい看護体験・インターンシップ（企業・官庁）などの体験の場を提供することで、現場で働くことについての具体的なイメージを持たせ、卒業後の進路につなげる。
A	3.2	A	3.3	A	3.2	進路に関する情報を職員間で共有できるようにする。	進路指導部会を通して、各学年と連携を図りながら、生徒の進学就職意識に関する情報など進路に関する情報を共有し、今後の進路計画が立てやすい状況を整える。
A	3.1	A	3.0	A	3.1	生徒や保護者にむけて進路や学習に関する情報を積極的に発信する。	定期的に『進路通信』を発行することで、情報共有が難しい職員に対してのみならず、生徒や保護者に向けて様々な進路に関する情報を積極的に発信し、より良い進路実現につなげていく。
臨時休業中の取り組み							
（進学関係） ・オープンキャンパスや相談会の中止情報、WEBでの開催などの情報収集に努め、特に3年生に向けて集約した情報を提供した。 ・4月に予定していた3年進路ガイダンスが中止となったため、6月20日にZoomを使用した進路ガイダンスを実施した。 （就職関係） ・電話による個別懇談を毎日実施し、生徒の就職に向けた意識の向上に努め、希望する職種の絞り込みなどを行った。 ・ハローワークや企業に連絡をとり、就職状況の把握や、日程変更に関することなどの情報収集を行った。							
今年度の振り返りと来年度への改善点							
今年度はコロナ禍の影響を受け、通常の進路ガイダンスやインターンシップを実施することができなかった。そこで、進学希望者にはオンラインでの大学、専門学校のガイダンスを実施し、また2年総合的な探究の時間において、企業とオンライン会議を実施するなど、コロナ禍に対応した取り組みを行った。就職についても、コロナ禍による変更等があったが、内定状況は堅調であった。来年度もコロナ禍に対応した進路指導に尽力したい。							

《保健部》							
全体	分掌内		分掌外		重点事項	具体的取組	
B	2.7	B	2.0	B	2.7	教育相談の充実、有効利用。	学年と連絡を密にしながら、相談が必要な生徒を早期に見つけ、利用を促す。
B	2.9	A	3.0	B	2.9	安全な環境づくり。	学期ごとに安全点検を実施し、危険箇所の発見、改善に努める。
B	2.5	B	1.5	B	2.6	保健委員の活動促進。	生徒自ら校内の清潔な衛生環境を保つのに必要な活動を促進させる。
A	3.1	B	2.5	A	3.2	健康診断結果の有効活用	健診結果をもとに、要受診生徒の保護者に受診勧告書を出し、生徒の受診を促す。
臨時休業中の取り組み							
教育相談の日程を組み、プリント、ホームページで周知を図った。							
今年度の振り返りと来年度への改善点							
臨時休業中明けは、総務と連携して各教室やトイレの消毒を行い衛生環境に留意した。生徒が清掃活動可能な時点で、保健委員にも消毒作業を分担しやってもらった。各自しっかりと行っていた。生徒保健委員会活動は今年度できなかったが、次年度は活動を再開したい。安全点検は2学期までの点検と修理は終えている。また安全対策として上階のトイレの窓は転落防止の観点から、全開しないよう対策ができた。定期健康診断については、新型コロナウイルス感染予防のため、実施が2学期になった。例年とは時期や手順等、変更点も多かったが教員と校医が連携を取り、臨機応変に実施することができた。運動器健診、色覚検査については5年前に学校保健安全法施行規則の一部改正等に併り取り組むよう通知が届いていたが、本校では未実施であった。今年度は授業時間が少なかったため色覚検査についてのみ実施を開始し、これまで色覚検査を受けたことがなかった生徒が自分の色覚を認識するきっかけとなった。運動器健診については校医と打ち合わせが済み、次年度以降実施予定である。							

《第1学年》							
全体	分掌内		分掌外		重点事項	具体的取組	
A	3.1	A	3.6	A	3.0	指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を心がける。	学年会をはじめ生徒情報の共有を日頃より努め、学年団全体で指導に当たる。
A	3.1	A	3.4	A	3.0	「一張一弛」を合い言葉に、基本的な生活習慣を身につけさせる。	状況に応じて、メリハリのきいた行動をしていく。自己を大切にし、相手の立場を尊重する姿勢を説く。社会的マナー（状況に応じた言葉遣い、期限内の提出、遅刻欠席の連絡、服装頭髪）を学校生活を通して遵守しようとする心を養う。
A	3.2	A	3.8	A	3.1	自主的な学習態度を育成し、基礎学力を定着させる。	週課題（国・数・英など）、朝の確認テストの実施（漢字テスト・英単語テスト）。授業において学び直しをおこなう（国・数・英）。予習・授業・復習のサイクルを作り、授業を大切にすることを身につけさせる。学力に不安がある生徒に対して補習をおこなう。
A	3.1	A	3.6	A	3.0	生徒への迅速な対応をおこなう体制を作るため、保護者との連携を密にし、地域とも活動を通して交流をおこなう。	学年通信（「緑風」）を定期的に発行し、学校・学年の取り組みを紹介する。家庭との情報交換に努め、生徒一人ひとりに対してきめ細かい支援をおこなう。地域貢献活動などに積極的に参加を促す。
臨時休業中の取り組み							
教科による課題プリント配布、スタディーサプリを活用した学習支援、zoomを用いた授業。 学年通信の配布、スタディーサプリを活用したアンケート及びメッセージの配信、電話で様子確認。							
今年度の振り返りと来年度への改善点							
生徒の自主性を重んじ、「一張一弛」を学年の教育目標にして指導してきた。48回生より1クラス減ったこと、入試で定員割れしなかったこともあり、例年よりも落ち着いた学年となっている。学年団は一致団結し、それぞれの担任クラスの運営を頑張ってくれ、いろんな事業にも学年団で共有し、一つ一つ解決していった。朝のSHRで漢字・英語の単語テストを各週1回実施し、不合格生徒に対しては、粘り強く指導した。学年通信「緑風」を定期的に（1月現在で9号）に発行する。コロナの影響で、手探りの状況の中、情報機器の重要性を感じた。オンラインを有効に活用していくことで有事に対する供えとしていきたい。また、進学希望者に向けての継続した補習を2学期末より始めることができた。来年度は進学希望者に1学期から継続した補習をおこないたい。							

《第2学年》							
全体	分室内	分室外	重点事項		具体的取組		
A	3.2	A	3.3	A	3.1	指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を常に心掛ける。	学年会だけではなく日頃から生徒情報の共有に努め、学年団全体で指導に当たる。
A	3.0	A	3.0	A	3.0	「克己復礼」を合い言葉に、弱い自分を克服し、何事も諦めない姿勢を育み、礼儀を重んじる姿勢を身につける。	何事にも真剣に取り組み、自己肯定感を養い、弱い自分に打ち勝つ心を育てる。また、挨拶の励行、制服を正しく着るなどの礼儀を重んじる姿勢を身につける。
A	3.1	A	3.1	A	3.1	規則正しい生活習慣を土台にし、基礎学力を定着させる。	週末課題（国・数・英）に取り組み、漢字テスト・英単語テスト・数学（計算等）を実施。理解不足の生徒には、審査前の補習や質問会を実施しフォローアップを行う。国・数・英では丁寧な授業を通じて基礎学力の定着と発展的な学習スキルの向上を図る。
A	3.2	A	3.3	A	3.1	進路実現に向け生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	進学希望の生徒には、大学・短大・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加させ、進学について具体的に考えさせる。就職希望の生徒には、インターシップなどの就職体験を通じて、社会人としての有り様について考えさせる。
A	3.2	A	3.1	A	3.2	保護者と連携を密にし、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	学年通信を定期的に発行し、学校・学年の取り組みを紹介する。学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者と密に連絡を取り合い、生徒・保護者・教師が同じ方向にむかって、丁寧な取り組みに努める。
臨時休業中の取り組み							
教科による課題プリント配布、スタディーサプリを活用した学習支援、エドモドを用いた授業（希望者）、スタディーサプリを活用したアンケート及びメッセージの配信							
今年度の振り返りと来年度への改善点							
「克己復礼」を学年の教育目標にし、ほとんどの生徒が1年生の時よりも落ち着いた言動や自立した行動をすることができるようになった。また、意欲的に学習課題や進路の課題に取り組むことができた。2学期中盤から進学者向けの発展的な補習や就職ガイダンスを実施し、3年生に向けた基本的なスキルを高める指導を行った。また、探求活動を通じてタブレットPCを活用民間企業とウェブ会議をし、課題解決学習やパワーポイントを使った発表活動を行うことができたが、家庭学習においてIT機器を利用した学習活動に十分につなげることができていないので改善していきたい。学年の教育活動については学年通信を通じて学年行事や生徒の課題、保護者へのお願いなどを発信しており、概ね理解や協力を得ていると考えている。コロナ禍により学校行事の縮小や修学旅行の実施を見合わせた。来年度においては可能な限り達成感や成就感がある教育活動を計画し実施したい。							

《第3学年》							
全体	分室内	分室外	重点事項		具体的取組		
A	3.1	A	3.1	A	3.2	「やるときはやる、やればできる」を合い言葉に、お互いを高め合える「TEAM46」をつくる。また、進路実現にむけて『自分で考え、実行し、責任を果たす』を実践する。	誇りをもって北高を「私の学校、僕の学校」と言える卒業生になるために、「できることはやる」ということを実行し、進路実現にむけて努力させる。
A	3.4	A	3.4	A	3.3	生徒の適性と進路希望を把握し、進路実現のための効果的な働きかけを行う。	生徒の進路希望と適性を的確に把握するために二者面談や三者面談を充実させ、普段から生徒・保護者との意思の疎通に心がける。また、コロナで影響を受けている入試動向についての情報を迅速かつ的確に捉え、生徒に適切な助言ができるようにする。
A	3.4	A	3.4	A	3.3	個々の進路希望、能力に応じた学力向上を目指す。	進路実現に近づけていくために、学力の向上をむけての補習の充実（オンライン補習・学習会など）させ、休日の図書室利用などで学習する機会を増やし、学年だけでなく学校全体で取り組み、進路実現につなげていく。また、学習合宿も実施する。
A	3.2	A	3.2	A	3.2	進路実現に向け、生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	進学希望の生徒には、大学・短大・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加させ、正確な情報の集め、日々の学習に目標を持って取り組ませる。就職希望の生徒には、社会人としての有り様について考えさせ、具体的な就職活動をさせる。
A	3.2	A	3.2	A	3.2	学校行事を通して自主性を育て、責任ある行動を身につける。	学校行事や生徒会行事などを生徒会執行部や各委員会などを中心に、「TEAM46」全員で行事を取り組み、北高を誇りをもって「私の学校、僕の学校」と言える卒業生としての思い出づくりをさせる。
A	3.3	A	3.3	A	3.3	保護者と連携を密にし、学年・学校と保護者が一丸となり、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	保護者向けの進路・就職説明会を実施することで、学校からの情報発信を続け、学年団の方針や学校・学年の取り組みを紹介する。適宜、学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者懇談会においても丁寧な取り組みの説明に努める。
臨時休業中の取り組み							
4月からエドモド・zoomを用いて、生徒の状況の把握や情報の発信のためのオンラインSHR、および進路などについてのオンライン二者・三者面談を実施した。また、学習面についても課題や学習動画の配信、オンライン授業の実施など、ピンチをチャンスと思い、新しい取り組みを考え、取り組んできた。							
今年度の振り返りと3年間の総括							
3年間、「やるときはやる、やればできる」を合い言葉に、お互いを高め合える「TEAM46」を目指した。昨年度は「自分で考え、実行し、責任を果たす」をスローガンに社会人としての資質を養うことを教育目標に指導してきた。その集大成となる今年度は、コロナの影響で4月・5月は休校になってしまい、6月から本格始動となったが、試行錯誤の末、休校期間中はリモートによる授業やオンライン面接などを行ってきたことで、スムーズに生徒の指導をすることができた。また、コロナ禍における体育大会・文化祭などの生徒会行事では、十分ではないが生徒が主体的になり、思い出に残るものとなったと思う。お互いを高め合える「TEAM46」として卒業を迎えることが少しはできたと感じている。さらに、進路については新入試にむけて紆余曲折がある中で、進路指導部や教科担当の先生方の協力もあり、補習や学習合宿の実施、休日の図書館の開放と、学習できる機会を十分に設定することができた。昨年度と同様、学年団は一致団結し、全ての事案について学年団で共有し、一つ一つ解決した。個々の生徒に対しての十分なサポートができていない部分があるかもしれないが、担任の先生の手厚い指導は生徒に届いている。高校卒業後のあり方についてもフォローできるようにしていきたい。							

《勤務時間の適正化に関して》					
全体		分掌内		分掌外	
		重点事項		具体的取組	
A	3.1			勤務時間の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・従事時間申告表による業務の「見える化」の推進 ・My定時退勤日を通じたタイムマネージメント意識の向上 ・職場環境の改善を通じた業務の効率化と「働き甲斐」の創出
臨時休業中の取り組み					
<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中の勤務時間(従事時間申告表より) <ul style="list-style-type: none"> 4月(勤務日22日)の時間外勤務…平均30.3分/日、5月(勤務日18日)の時間外勤務…平均28.6分/日 ・My定時退勤日の設定および実施状況(4、5月は設定せず) <ul style="list-style-type: none"> 6月は63.1%の職員が設定。(前年同月比+50.9pt…臨時休業の影響も大きい?) 分散登校や部活動の制限などもあり概ね計画通りに実施されたが、今後の推移はまだわからない。 ・臨時休業に伴う在宅勤務の実施(4/13~5/31) <ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務率*(在宅勤務者数/全勤務者数)…4月26.6%・5月13.8%・通期19.5%⇔県目標70~80%(*常勤職員のみ) 					
今年度の振り返りと来年度への改善点					
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外在在等時間(従事時間申告表より) <ul style="list-style-type: none"> R2.4~R3.1月の平均…29.33時間/月 <p>従事時間申告書の提出状況はほぼ100%を維持しており、業務の「見える化」に対する意識は高まっている。 給特法による1か月の時間外在在時間の上限の指針(=45時間)を平均では下回ってはいるものの、月によっては100時間を超える教員もあり、平均値それ自体の意味づけは難しい。 特別指導等の際には業務の絶対量が激増するといったなかで単純な業務量の削減は容易ではなく、引き続き「働きがいのある職場」(量の削減より質の向上)を目指す取り組みを続けたい。</p>					